地震一口メモ No. 115

『量的降灰予報』について①
～利用の用途に合わせた３種類の情報発表～

前回の一口メモでご紹介した火山灰災害に適切に対応するには、どの範囲に影響があるのかを把握することが重要です。新しい『量的降灰予報』では、“どこに”に加え、“どれだけ”の量の火山灰が降るか、をお伝えすることになっています。今回の一口メモでは、『量的降灰予報』の内容をご紹介します。（『量的降灰予報』は平成27年３月から提供予定です。）

情報の種類とタイミングおよび桜島での発表例を下の図に示します。『量的降灰予報』には、利用の用途に合わせて、「噴火前の情報」、「噴火直後の速報」、「噴火後の詳細な予報」の３種類があります。「噴火前の情報」は、突然の降灰に事前に備えるため、国内の噴火の可能性が高い火山に対して提供します。噴火発生がない場合でも、18時間先までのある時間帯で噴火した場合、その時間帯に対応した予測図を見ることによって、降灰の範囲と小さな噴石の落下範囲を知ることができます。この情報は、各火山において想定された噴煙の高さを用い、刻々と変化する気象条件を加味して、３時間ごとに更新します。次に、実際に噴火が発生すると、発生後５～10分程度で「噴火直後の速報」を発表します。この情報は、すぐに降ってくる小さな噴石などから身を守ってもらうことを目的にしており、噴火発生から１時間以内の降灰量や小さな噴石の落下範囲をお知らせします。その後、実際に観測した噴煙高を用いた精度の高い予測をおこない、発生後 20～30 分程度で「噴火後の詳細な予報」を発表します。この情報では、噴火発生から６時間先までの降灰量や市町村ごとの降灰の影響が出始める時間を１時間ごとにお知らせし、降灰量に応じた適切な対応行動をとってもらうことを目的としています。

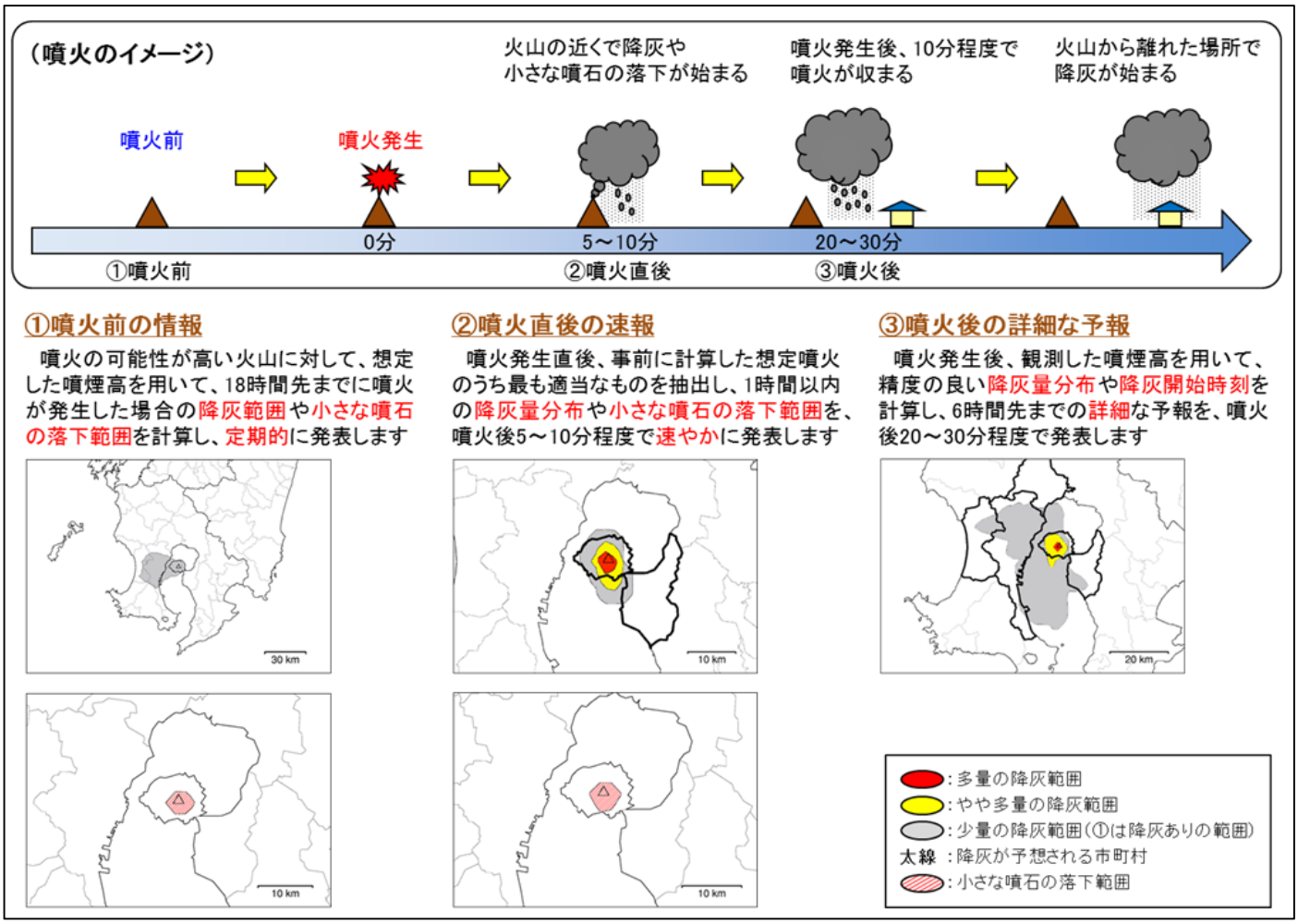

図　情報の種類とタイミングおよび桜島での発表例（気象庁 HP から）詳しくは以下の URL をご参照ください。
http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/qvaf/qvaf_guide.html

次回の一口メモでは、『量的降灰予報』を防災情報として有効に活用していただくため、“降灰の影響ととるべき行動”を降灰量ごとに整理した「降灰量階級」をご紹介します。